



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 15 No.1 2014年 4月

鷺の宮卓話

桜の季節

研究所理事長 太田敬雄

今年3月に初めてアメリカで多文化交流を実施しました。「多文化交流 inUSA 2014」は、群馬県立女子大の卒業生で、現在オレゴン州ポートランド市にある Portland State University の修士課程で学んでいる朝倉奈緒美さんが受け入れ側として企画を担当。学部で日本語を専攻している学生たちの協力を得て素晴らしいプログラムを作り上げてくれました。

Portland の大学のスケジュールと、日本の大学の日程を考慮し、3月の20日に渡米し、シアトルで2日ほど過ごして、22日にポートランド入りをしました。日本からの参加者も、またポートランド側の参加者も少なかったのですが、中身の濃い交流の日々を持つことが出来ました。

シアトルのホテルを出るとすぐに満開の桜の街路樹。さらには、市内にあるワシントン大学の構内には樹齢85年になるソメイヨシノがあるとの事。

満開の桜に私たち一同、シアトルに親しみを覚えたものです。



初日の桜に思わずポーズ

ポートランドに移動した翌日の日曜日には、毎週末に市が立つというところに遊びに行きました。“芸術家”達がそれぞれ自分で作った装身具や彫刻、陶器などを売っている楽しい市で、作者たちとの会話を楽しみながらの買い物は初めてであるにもかかわらず懐かしい思いのする時と場でした。その市の外れの川沿いにも満開の桜の並木があり、その前で親子らしき二人がジャズの演奏をしていました。



テンポ良いリズムに、小さな子どもが踊りだす。老人は身をかがめてその子のダンスと競演！日本の花見とはチョット異なるあたたかく豊かな時間となりました。

思えば、韓国の慶州でも延々と続く桜並木に圧倒されたことがありました。私たちは「桜は日本のもの」と思いがちですが、実は世界のあちらこちらで桜は愛でられているのですね。

日本でも、あちらこちらでアメリカのハナミズキ (dogwood) が楽しまれています。花の世界でも、もう国境は無くなってきているようです。

総会のお知らせ

今年の総会を2014年5月17日に開催します。会員の皆様のご意見を拝聴しながら、皆さんと共にこれからのIIMSの活動を方向づけて参りたいと思います。

日時：2014年5月17日(土)午後2:00より3:30

会場：まなばるXD 安中市安中2456-2

議題：2013年度事業報告・会計報告、2014年度事業計画、予算。

同封のハガキで参加・不参加をお知らせください。ご欠席の方は、委任状をお願いします。

<<同日10時半より理事会を開催します。理事の皆さまのご参加をお願いします。>>



— MANAPAL OFFICIAL WEBSITE より —

「地域」そして「子供たち」に、
より多くの「学びの機会」と「憩いの場」を。
まなぱるは、そんな願いで
NPO法人国際比較文化研究所が設立した
多目的民間教育施設です。

2009年10月に小規模な英語教室から始まり、
2010年4月に未就学児／低学年児童向けの
こども英会話くらぶ及び
高学年向け英語クラスがスタート。
2014年3月現在、
2歳のチビっ子から社会人まで！
約200名の生徒たちが
まなぱるに通ってくれています。

まなぱるの活動は英語学習に留まらず、

- ・その他学習支援
- ・不登校・ひきこもり支援、
- ・他施設との協働
- ・生活／悩み相談
- ・留学支援
- ・ニートを含む若者成長支援など…

様々な角度から「子どもたち／若者たち」の
活動・成長を応援しています。

地域の皆様や県内外の仲間たち等、
本当に多くの方々に支えられ
この活動を継続しています。
そのような皆様に
心から感謝致しますと共に、
その思いに応えるべく
「現代社会が子どもたちに課した諸々の問題」の
改善と解決に努めています。

… … …

コミュニケーション能力の低下、
希望を持たない未来、
埋もれていく可能性、
踏み出せない一歩、
逃げ道の先にある落とし穴。

子どもたちは多くの悲しい現実と
直面しています。
そしてその多くの問題は、
彼らに原因があるわけでは
ありません。

彼らが育つ環境が
彼らにもたらす問題ばかりです。

そしてその環境を作っているのは
今まさにこの社会を支えている大人たち。
彼らの健やかな成長を願ってやまないはずの
私たち自身なのです。

まなぱるの取り組む問題は、
つまりはこの世界に生きる、
私たち自身の問題です。

… … …

まなぱるが子どもたちに伝えようとしているこ
とは、
そんなに難しいことではありません。
喜び、幸せ、希望、楽しみ、
そんなものは実は
すぐ近くに転がっているということ。

それらをちゃんと見つけられるように
困難からも背を向けず、
ひとつひとつを乗り越えて
成長していくんだということ。

成長とは、未来の可能性を広げる
とっておきの宝物です。
子どもたちがみんなで、
そんな宝探しをめいっぱい楽しんでくれること
を願いつつ。
そのお手伝いをしていくことが
私たちの役目です。

NPO 法人国際比較文化研究所副所長
まなぱる代表
太田琢雄



- >> 私立新島学園中学・高校卒～米国コンコーディア大学卒
(人類学・心理学専攻)
- >> 日本大学にて英語科教員免許取得。
- >> 学校法人有坂中央学園・中央高等専門学院にて英語科責
任者・学年主任・広報リーダー等を務める。
- >> 2009年4月より、国際比較文化研究所副所長に就任。同
年10月まなぱる開設。

インドネシアでの教育実習

常葉大学 杉本有規



私はインドネシアのマランという町にあるMAN 3 高校に3月8日から3月28日まで日本語教師の実習に行ってきました。行く前の私はとても緊張していましたが、それ以上にワクワクしていました。確かに少し不安な気

持ちもありました。しかし、私はマランに行くのが3回目というのもありますし、マランに友達もたくさんいます。そのこともあり、不安や緊張よりも期待の方が大きかったです。私は今回、「NPO法人比較文化研究所」の派遣で実習に行かせていただきました。マランには同じく比較文化研究所が主催している「多文化交流 in マラン」で2回訪問しました。私が日本語教師を目指していることもあり、太田先生より今回の実習のお話をいただいた時、悩むことなく参加を決意しました。



杉本君（ネクタイ姿）とMAN 3の先生方



杉本君と制服の生徒たち

MAN 3 高校は正式名称はイスラム教立MAN 3 高校といい、イスラム教の学校です。学校の隣にモスクというお祈りするための教会があります。イスラム教だから何か特別なことをしているということはありません。日本の高校生と同じように勉強したり、遊んだりしています。ただ学生は当然イスラム教徒です。女の子はジルバブとい

うもので髪を隠していますし、肌の露出がないようにしています。先生も学生も1日5回お祈りをします。

MAN 3 高校の先生方は皆、明るくて親切でした。私は英語が上手くはありませんし、インドネシア語もあいさつ程度でしか話せません。それでも声をかけてくれたり、ご飯に連れて行ったりしてくれました。先生方には本当にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。MAN 3 高校の学生も皆明るく、元気でやさしい子でした。まだ来たばかりの私に皆、あいさつをしてくれ、話しかけてくれました。どのクラスも授業中のにぎやかで発言や発表を積極的にしていました。私がこの実習を楽しく行えたのは、MAN 3 高校の先生方と学生のおかげであると心からそう思います。インドネシアでの生活をサポートしてくれたマコ先生、Pinky 先生、Alif 先生には心から感謝しています。たくさんの人に支えられ、私は今回の実習を終えることができました。そして期待を上回る、たくさんの経験をしました。今回の実習のお話をくださった太田先生と実習をさせていただきましたMAN 3 高校の校長先生に心より感謝します。



“杉本先生” 授業風景



モスクで守られる祈りの時間

〈〈MAN3での実習は、先方からの要望で実現しました。杉本君のお陰で日本語クラブの参加者が3倍になったとPinky先生に感謝されました。〉〉

「多文化交流 in マラン2014」

東京大学大学院法学政治学研究科 杉浦翔太

国際交流と呼ばれるものが好きではなかった。暇をもてあました大学生が親の金でどこか海外に遊びに行き、Facebookの友達を山ほどつくって、日本に帰ってきたら「自分の世界が広がった！」なんてはしゃいで、サークルの友達にお土産を配って海外自慢。そんな印象があった。なんと軽薄な連中！その後Facebookで英語の投稿なんか始めたら、もう完璧である。君の人生広がったのかもしれないけど、それはただ薄っぺらく引き伸ばしただけじゃないの、なんて思っていたのである。英語ができない私のヒガミも、少しあった。

だから、私がこの3月に多文化交流 in マランに参加して、今はこれがとても有意義な経験だったと思っていて、まだ参加していない人には自信を持って勧めたい、ということは自分でも驚くような心境の変化である。どうやら私の世界も広がったのかもしれない。

私を今回の多文化交流に誘ってくれたのは、マランスタッフのファリダである。彼女は私にオンラインでインドネシア語を教えてくれている先生で、たまたま多文化交流のスタッフリーダーでもあった。彼女自身2年前には多文化交流 in ぐんまに参加している。彼女は上記のような軽薄連中とは違う知性的な先生だったし、それに笑顔の素敵な女性だった。私は女性の笑顔に弱い。マランに行こう、と思った。

結果的には参加して大正解だった。マランには笑顔の女性がたくさんいた。それに多文化交流には素晴らしい点がいくつもある。言葉にできないものも多いが、それでも今一つ言えるのは、多文化に触れることで「～でなければならない」という思い込みを捨てることができることだと思う。私たちは長い自文化の生活の中で、それとは気が付かず不合理な思い込みを持っている。それが、自分とはまったく違う文化、習俗、言語、価値観にさらされることで、浮き上がり、修正されていく。無自覚のうちに自分の中に作っていた檻を、取払うことができる。きっとそれが「自分の世界が広がる」ということの意味なのだろう。これは本を読んだり、人から話を聞くだけではできないことである。自分で実際に出かけてみて、多文化を経験するしかない。だから、これから多文化交流に参加したいと思っている人にはぜひ勧めたいし、私自身もまたマランに足を運びたいと思っている。とてもいい経験をすることができた。太田先生、スタッフや参加者の皆さんにはここでお礼を申し上げたい。どうもありがとうございました。

《多文化交流 in マラン2014 3月4日～12日実施》



これまでで最も参加者の少ない多文化交流 in マランだったが…



マランの大勢の友の笑顔に囲まれて、あたたかい交流が出来たことはうれしかった。



高校生たちとの語り合いは易しく…



大学生との熱いディスカッションは一瞬にしてダンスの場に移行し…

今年もまた充実のマランになりました。感謝。

太田

多文化の“魔法”に魅せられて

群馬県立女子大学卒 今井望

記録に残る2月の豪雪。関東各地で様々な影響をもたらしたあの大雪の中、私たちは孤立した安中の地で、仲良く楽しくあったかく、多文化交流をしておりました。今でこそこのように楽しい思い出として振り返ることができますが、あの時は全員無事で帰れるのか、食糧はどうなるのか、具合が悪くなるような参加者がいたらどうしようか、など様々な不安に襲われてあたふたと心配ばかりして、道路状況や天気などの情報収集をしていたことを覚えています。ですが、今こうやって楽しい思い出として振り返ることができるのも明るい参加者のみんな、頼れるスタッフ、お力を貸して下さった関係各所の皆様、そして太田先生のおかげでした。

今回のプログラムでは、大雪の影響で予定よりも1泊多く学習の森に滞在し、さらには多くのプログラム内容も変更せざるを得ない状況でした。そんな中、参加者の皆はそんな雪の影響もなんとやら、楽しく交流してくれました。スタッフも今までに経験の無いような状況にも、多少の不安はあったでしょうが臨機応変に動いてくれました。大雪にも動じずに対応するスタッフの姿に感動を覚えたのは言うまでもありません。そして参加者もスタッフも一緒になってプログラムを作り出すのがこの「多文化ぐんま」。そのうちに参加者もスタッフも協力して食事準備や雪かきなどを行っていました。何かを一緒にやることの魔法と言いましょか、特に今回は雪で遮断された特別な空間で一緒になって生き抜いた為とでも言いましょか、そのうちにまるで家族のような深い絆が私には少なくとも感じられたのです。何も言わなくてもなんだか相手の言いたいことが分かってしまうような、とってもあったかくてぼかぼかとした、そんな特別な感覚でした。改めて多文化の魔法を感じた瞬間でもありました。

私事ではありますが、これが学生として参加する最後の「多文化ぐんま」でした。何度もスタッフとして参加をしてきた群馬での多文化に、他で開催する多文化交流よりも強い愛情のようなものを感じていました。特に今回は代表という今までにない立場から関わらせて頂きました。最初こそ気負いすぎたり不安になったりしていた私でしたが、支えてくれる皆さんのおかげで最高の経験と思い出を得ることが出来ました。本当にありがとうございました。学生時代に多文化交流に出会えたことは私の人生の宝です。多文化に出会っていなければ一生の友人やこのような素晴らしい想いを得ることはできなかったと思います。そして今の私の大きな原動力にもなっている将来の夢を見つけることもできな



かったのではないのでしょうか。

これで私は一旦学生としての多文化からは卒業です。ですが、私の多文化がこれで終わるわけにはありません。むしろこれからなのではないかと感じています。これからの時代を作っていくのは私たち世代です。今までに多文化で出会った数々の友人達とこれからも手を取り合って、さらにその輪を広げながら、みんなの笑顔が一つでも多く溢れるような世界にしていきたい、とそう思っています。

多文化の素敵な魔法に魅せられた私は、この魔法からどうもしばらくは抜け出せそうにありません。もちろん、抜け出すつもりもないのですが。

〈〈多文化交流 in ぐんま 2014 2月14日～16日 実際には豪雪の影響で帰れず、17日解散。40名近い参加者は安中市の災害救助用非常食の提供も受けて無事難局を乗り切る。スタッフ・参加者の一体となった除雪作業なども見事であった。〉〉

雪を心配しながら始まった交流…



二日目、朝起きればこの豪雪。責任者太田は会場の学習の森に駆けつける事さえ出来ませんでした。

けれども、たった一日で築いた多文化仲間の繋がりは本物。雪の重圧にも負けていませんでした。

餅を搗き、餅を食い、達磨を作り、駐車場から道路まで、さらに道路も雪をかき、食事を作り…
全て共同作業です



日本の寒さも雪も物ともしないロシアの青年・軍隊時代に雪かきなら嫌と言うほどやってきたという韓国

の学生、「みんな違ってみんないい」を実感し、みんな違うからこそ一つになれたと確信させてくれた豪雪でした。「楽しかった」と帰っていた皆！
ありがとう。

太田

「多文化交流 in USA」

日本大学商学部 横井宏行

はじめに、この会を開いてくださった太田先生、姫さま、そしてPortlandのスタッフの皆に、たっつくさん感謝申し上げます。何事もなく、ずっと楽しい時間を過ごすことができたのは、皆のおかげです。それでは、全部日本語だけど、皆がん



【22 March】 皆と会う最
Seattleの中華街でポルトバスを皆で待っている中、最初に話しかけてきてくれたのが Danny でした。

突然だったのでビックリしましたが、でも笑顔で「はじめまして～」と話しかけてきてくれたので、その時は緊張がほぐれたのを良く覚えています。もう少しして Roxie と姫とも初対面して、自己紹介の時に、“My name is ” って英語で言ってしまったのも、今となっては良い思い出。バスの中ではたくさん Danny と話しました。

そして、初めての Portland に到着！ Benjamin とも初めて会ったけど、その日はギター弾きに行っちゃったね（笑）

Portlandの最初のレストラン、Rock Bottom Brewery！あそこは食事がおいしくて感動しました！人気の理由がよくわかります。

帰り道に見た桜も綺麗だったね～！

帰り道は半分酔っててちゃんと覚えてないんだけど（苦笑）、Roxie が隣にいてくれなかったら多分途中で死んでいました（笑）

【23 March】 2日目は、Alice を探しに Portland 巡り。あのアプリを姫が作ったと聞いて、最初は信じられなかった！！さすがです！

最初は Voodoo から。ああいう変なお店も、Portlandらしくて、面白い。Voodoo のドーナツから血が出てきたのも衝撃でした（甘いラズベリージャムだけだ）笑）なおさんとも初対面しました。ひよこじゃないですよ、ひろくんですよ。

市場も見に行ったね。ひとみんと合流して、古着屋も見だし、ポテトも食べたし、アイスクリームも、たくさん食べた！！アメリカの濃厚すぎるスイーツ、だーいすきです！！…長くなるので、ちょっと省略しながら…で、えーっと、Alice は結局どこにいたんだっけ…？あの声の響く所だったっけ？食べられちゃったんだっけ？？^^；

PSU も見れて、めちゃくちゃ広くて、ここに通ってる皆が羨ましいばかりでした。広すぎて疲れない？！

夕食の Pastaria のカルボナーラも絶品でしたなあ。で、この後はまた酔って記憶をなくして…あ、そういえばわきがピアス失くして、りょうちゃんが道端に落ちてるのを偶然見つけたよねw あの時はりょうちゃんが神様に見えたw w超かっけえw w

【24 March】 Oregon Zoo!!!! わきの最初のクマさん見てのテンションの上がりっぷりにはビックリしました。

Danny とりょうちゃんとグループで一緒になって回って、最初に鳥さんにエサを与える所に行って、鳥が僕の腕に来てくれたのはいいけど、まさか、服に糞を落とされるとは (T_T) Roxie が「それはとってもラッキーなことって友達が言ってたよ」って言ってくれて、救われる思いがしました。

そしてまさかスケボーを買うことになるなんて、予想外で、so crazy!! 最高！！

Benjamin、「本当に買うの？」ってめっちゃ心配してたねw でも本当に買って良かった！あの乗ってる時の気持ちよさは何とも言えない感動がある。ARCADE も白熱したな！ Benjamin 案内してくれてありがとう！！

ミニゴルフもやった！ここで働いている Danny は、さすがの腕前だったね（笑）みんな OB しまくってたな～あれってギャラリーがいると余計緊張するよね。

【25 March】 OMSI!!!! 雨の予報だったのに、めちゃくちゃ晴れたね。晴れ男晴れ女、誰だろう。ありがとね（笑）

あやかが The Age Machine をやって、未来の 50 歳のあやかの予想写真が今と大して変わってなかったのには、超笑いましたw w（ずっと若いってことだね！！！！）

OMSI の後は、ずっと計画してきた、先生への誕生日サプライズ！！先生、全く気づいていなかった様子で、大成功だったね！！

皆で選んだ T シャツもピッタリで。（先生、ずっと着てくれてましたね）今度は先生からの逆サプライズで、りょうちゃんの卒業式もやって。あの時間は、みんな温かい気持ちに包まれてて、ずっとこのままでいたいと思ったものです。

この後のショッピングはみんな気が抜けて、ちょっとグッタリしてたね（笑） Benjamin めっちゃ誕生日近かったね！あれはビックリした。姫が急遽提案した \$2 ゲームも、楽しかった～。

夕食はケチャップの美味しいレストランでした。僕が食べた Rice bowl が "Green Machine" という名前だった。なぜなのか、未だに謎です。Roxie の英会話レッスンが始まって、あの時はものすごくハラハラしたよw w

で、初めてのスケボー。最初はスケボーに立つこともできなくて、Benjamin もりょうちゃんも Danny もみんなサーーーっと行っちゃうから、ものすごく焦ったw w Benjamin、さすがの腕前！！俺も負けてらんねえぜ。この時転びまくって、翌日、身体中痛かったのは秘密（笑）スケボー下手すぎてちょっと凹んでたけど、Wonderland で当たりまくって、隣にいたおばちゃんと一緒にテンション上がりまくって（笑）

【26 March】 そんなこんなで最終日。Danny、最初から涙目だったね（笑）

みんな仕事先とか学校から電話かかってきたりして、みんな忙しい中なのに参加してくれてるんだなあってことを知りました。本当にありがとう、みんな！！

さとみお母さんとも初対面しました。先生がホテルに忘れたレイコさんの写真取りに行って、ほとんど話せませんでしたね；；（先生～～～！！笑） Danny が作ってくれたケーキ、ほんとにーっつに、

あの後ケーキ持って帰って、皆で全部食べちゃった美味しかった！！姫からのサプライズムービーも、笑いあり涙ありで、感動しました。ああ終わっちゃうんだなあ、って思いつつ、でも、これからまた皆会えるよな、って思って涙は必死にこらえました。泣いたら前が見えないからな！

本当の最後は、わき・りょうちゃん・あやか・僕からのプレゼントで、どう？みんな喜んでくれたかな？僕からはピカチュウの箸です！大事に使ってね～～Roxieもサプライズで手紙ありがとう！宝物にします。

帰りのバスもなかなか発車しなかったけど、みんなずっと待ってくれて。バスが遠くに行っても、ずっと手振ってくれてたの、見えてたよ～！嬉しかったよ～！！ありがと～～！！

長いのに最後まで読んでくれてありがとう！！

書ききれないことばかりだけど、みんな優しく、たくさん色んなこと教えてくれて、最高の5日間でした！！

今も、みんなと過ごした時間が走馬灯のように思い出されます。それほど強烈に記憶に残る5日間でした。

再びみんな別々の生活が始まったけれど、でも、国籍を越えたあの多文化交流は、一生の思い出です。またアメリカ行きて—————
—！！！！！！！！！！

DannyもRoxieもBenjaminも、日本に来る時は、絶対連絡してな！姫も、頑張って院卒業してくださいな！日本でまた会いましょ！

ああ終わりたくねえー！！って、そんなこと言ってもしょうがないから、もうおしまいにしたいと思います。

あばよ、みんな！また会おう！！！Hiro

横井君は Portland のスタッフへの言葉風に感想を寄せてくれました。

〈「多文化交流 inUSA」3月20日、21日とSeattleで過ごし、バスでPortland, Oregonに移動。22日から26日まで交流〉企画は「姫」コト朝倉奈緒美さん。群馬県立女子大卒で、現在Portland State Universityの院生。がんばってくれました。感謝。
太田



今回の仕掛け人、朝倉さんとホテルの前で



全体写真はどうしても皆、同じような写真になってしまう。でもこの笑顔が全てを語ります



熊に抱きつく脇、脇に怯える熊



「姫」コト、朝倉奈緒美さん
アメリカでの多文化交流の仕掛け人。
時はちょうど桜が満開の時でした



大学のキャンパスでの一コマ。
最初の日と、最後のお別れ会で大学に伺いました。その他はポートランド市全体が多文化交流のキャンパス！

留学を終えて思うこと

法政大学キャリアデザイン学部 野口泰佳

「一步踏み出せないことがあっても、その一步を出すのがどんなに不安でも、勇気を持ってその一步を踏み出してみる事が大切。」一年間の留學生活を終えた私が今言えるのはこのことです。



私は、約1年間アメリカのテネシー州にある、

Maryville College というところへ、大学を休学し、留学に行ってきました。高校生の頃から、留学には興味があったものの、将来自分は道に進みたいのか、ビジョンがあやふやなまま大学生活を送っていた私は、自分の気持ちをなかなか行動に移せずにいました。そんなふわふわした生活を送っていた大学2年の夏、自分がどんな道に進んで行きたいのか考えた時期がありました。その時、私は色々な国へ行き、物を買って海外バイヤーになりなれないと思ったのです。そのため、まずは「英語でもきちんとコミュニケーションを取れるようになりたい!」「留学したい!」そう思いました。

しかし留学となると、学校選びや手続きなど、分からないことだらけでした。そんな時、研究所が留学の支援をしてくださるということを知り、その支援をお借りして留学することを決意しました。

まずは学校選び。留学先選びは、研究所が学校をピックアップするという、受け身のものではなく、自分で良いと思う学校を選び、その中からどういったところがいいのかアドバイスを頂いて決めるという、私主体のものでした。自分ですべてのことを決めるのは不安でしたが、研究所の支援がその不安を取り除いてくれました。また、何をやるにしても当てはまることですが、こういった支援の形のおかげで、私は自分で決めることの大切さを再確認出来ました。

留学先も無事決まり、様々な手続きもノウハウを教えて頂きながら完了して出発しました。最初の1、2ヶ月はとても辛かったのを覚えています。みんなの会話に付いていけない、会話に入れない、言いたいことを頭で考えているうちに、話がまた次の話題にいつてしまう。そんな壁に打ち当たりました。間違えたことを言うのを恐れていたのです。しかし、そんなことは気にせず、とりあえず何か話してみる、ということをしたら、だんだんと会話に入れるようになりました。ここでも一步踏み出して、恐れず話すことが大切でした。間違いを恐れることが、物事の上達を妨げてしまうのだと感じました。

さて、私が留学して良かったと思うことは沢山ありますが、その中でも、一番は様々な国の人に出会い、友達になれたということです。サウジア

ラビア、ミャンマー、スイス、ブラジル、パキスタンなどなど、日本に留まっていたら、こんなに多くの国の人と輪を広げられることはなかったでしょう。アメリカの文化を肌で感じただけではなく、アメリカに留学に来ている様々な国の友達から、その国の文化を学ぶこともできました。時には、みんなで集まって、各々が自国の料理を振る舞って楽しむということもありました。私作ったとんかつも大好評でした。ちなみに、私のお気に入り、カブサというサウジアラビア料理です。カブサとは、鶏肉を何種類ものスパイスの入ったスープで煮込み、その肉をオーブンで焼き、それからその煮汁でご飯を炊いて、オーブンで焼いた鶏肉をのせた料理です。サウジアラビアは食事を手で食べる文化なので、私もその食べ方に挑戦しました。ご飯を手で食べるのは、初めての体験だったのですが、なんだかそれがとても自然で、美味しかったです。



Maryville の仲間達と

また、私が通っていた語学学校は、大学付属の語学学校だったので、現地の学生と触れ合える機会が沢山ありました。(普通の語学学校では難しいと思います。) 留学の後半は研究所が掛け合ってくれたこともあり、大学の授業も受講することが出来ました。そこで感じたことは、とにかく宿題が多いということと、学生がしっかり勉強しているということです。今までだらだらした大学生活を送っていた自分がなんだか恥ずかしくなりました。留学に行っていなければ、こんなことにも気付かなかったかもしれません。大学生活では遊ぶことの中からも得ることは多いと思いますが、本業は学業だということをお忘れにはならないと思いました。“遊ぶ時は思い切り遊び、勉強も怠らない”当たり前のことですが、そのことを再確認した一年間でした。

振り返ると、大学に入学する前まで私は、どんな時も目標を持っていました。小学校の時はマーチングで全国大会に出るという目標、中学校の時はテニスの大会で勝ち進むこと、高校、また浪人生活では自分に入りたい大学に入学するという目標。常に一つ何かのゴールに向かって頑張っていました。ゴールがあったからこそ、辛いこともどうにかこなしてきました。しかし、自分の入りたかった大学に入学し、勉強漬けだった浪人生活が終わったこともあって、気持ちがふっと抜けてしまいました。何の

モチベーションも持つことが出来ず、だらだらと過ごしてしまいました。しかし、留学するということが決まってから自分のモチベーションが上がり、色々なことに身が入るようになりました。小さなことでもいいから、常に近い将来の目標を立て、モチベーションを上げることが、人生を有意義なものにするポイントなのだと思います。アメリカでの留學生活の中で、沢山のひとと出会い、新しいことに触れ、新しい発見をしてきました。

最初はなることかと思っていた留學でしたが、本当に最高の一年を送ることが出来ました。日本に留まっていたのは、経験できなかったこと、気付けなかったことも、勇気を持って一歩踏み出したおかげで、経験し、気付くことができました。また、沢山の国のひとと友達となったことで、様々な国のひとと関わることがどれほど素敵なことなのかを実感しました。これからも、色々なひとと出会い、自分の世界を広げていきたいです。

留學支援について

研究所ではこれまでも何人もの方の留學を支援してきました。今回は1年間の語學留學をされた野口泰佳さんに、その留學体験を振り返っていただきました。この留學体験がこれからの野口さんの留學生活、さらには卒業後の人生を豊かなものにする一助になればと願って止みません。

これからも、留學を希望する方々を研究所がお手伝いしていきたいと願っています。留學ご希望の方は、一度研究所にお問い合わせください。短期留學、長期留學、語學留學、大学・大学院への留學など、お一人お一人のニーズに合わせて支援させていただきます。経費等をご相談下さい。

竹林交流会へのお誘い

会員の皆様に気楽に参加していただけるイベントとして、今回タケノコを掘りながらインフォーマルな交流の時を持つ竹林交流会を計画しました。

タケノコは多分掘れると思います。掘れたタケノコは各自お持ち帰りいただき、それぞれに楽しんでください。楽しい休日になります。お誘い合わせの上お集まりください。

竹林交流会 概要

- 1、集合場所:安中駅(車でおいでの方も安中駅にご集合ください。他の参加者の移動にご協力いただきます。)車を止めてから2~3百メートル歩きます。
- 2、集合日時:5月3日午前10時(小雨なら実施しますが、雨の場合は中止にする事もあります)
- 3、持参していただくもの: (a)お弁当・飲み物、敷物 (b)「さがら」などタケノコを掘る道具をお持ちの方はご持参ください。(お持ちでない方はこちらで準備しますので交代で使しましょう)
- 4、参加費: 一般200円、小学生100円、未就学児 無料(当日頂戴します)
- 5、会場:安中市大谷(オオヤ)の竹林。 6、解散:1時半過ぎに安中駅で
- 6、参加ご希望方はメールにて前もってお申込ください。連絡先:tk6446tk4971@docomo.ne.jp
~タケノコは掘れても掘れなくても楽しいですよ~大人も子どもも楽しめます!

タケノコがなかったらごめんなさい! 猪が先に食べてしまうことも!

☆タケノコを入れる袋はレジ袋は破れやすいので、出来れば厚手のものを。

☆山ですので、衣類は長袖を、履物は長靴など。軍手も有るとよいですね。

安中大谷の竹林で
タケノコ掘りやらお弁当
楽しく過ごせば
心も通う



2014年度前半の予定と抱負

2014年度が始まりました。早いもので、研究所を設立してから15年目になります。

今年は、先ずどなたにもご参加いただける新しい企画として9ページに記しました「竹林交流会」を計画しています。一緒にタケノコを掘り、弁当を共に食べる。ちょっとした遠足のような計画です。先日竹林の整備に行ってきました。

もう一つの新しい企画は「親子多文化交流」台湾の親子と日本の親子の交流会で6月5日から8日にかけて安中の学習の森で開催。日本人親子も参加しての交流会は7日10時～4時、その後台湾からの参加者はホームステイ。ステイ先を求めています。8日夕方にホームステイから戻り、日台の食文化交流パーティの予定です。この交流会は中国語、英語、日本語の入り混じった交流となりそうです。

留学生との多文化交流 in ぐんまは8月15日から17日、学習の森で。二月の豪雪の多文化交流にもめげずに学生スタッフが準備を始めようとしてくれています。

続いて、多文化交流 in 釜山を8月22日～28日で準備を進めています。26日まで釜山外大の学生との交流、26日にソウルに移動して檀国大学の学生とのミニ交流会。

さらに今春実施した「多文化交流 in USA」を9月に実施できないか、現在検討中です。

その他、講演会等も考えていますが、それにつきましては実施のめどがつかましたら改めてご案内させていただきます。

まなばるは今年も少しずつ発展しながら継続して活動を続けています。

皆様のご希望・ご提案等ございましたら、ぜひお聞かせ下さい。

15年前、研究所を発足させた時点では想像もしていなかったような活動に発展してきていますが、設立当初からの目標「一相互理解に基づいた豊かで平和な地球社会を創るために」を夢見つつ歩んでまいりました。今日の世界の情勢の中で、この目標をさらに高く掲げて歩みを進めて行かなければならないと決意しております。

会費納入のお願い

新しい年度を向かえ、2014年度の会費をお納め下さい。ご寄付も宜しくお願ひします。「多文化交流」の事業、「まなばる」の活動、それぞれに受益者負担を原則として進めては居りますが、サポートを必要としている事には変わりありません。ご協力のほど、宜しくお願ひします。

なお、会員の年会費は2000円。ご寄付は使用目的を特定しない一般寄付と、多文化交流、まなばる、インドネシア招聘などへの指定寄付とが有ります。いずれでも幾らでも結構ですがご支援いただければ幸いです。

訂正

昨年11月号のニューズレター (Vol.14. No.15) に次の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。ご寄付者名：(誤) 鬼頭幸子⇒(正) 鬼頭孝子

会費・寄付 (2013. 11.14～2014. 4. 10) 敬称略

<会費> 関千景 (12・13)、小坂景子、青葉由香、内田穂積、加藤靖弘、小林久子、岡田一恵、星野富雄、星野敏子、太田知子、河村十朱子 (12・13)、伊藤成、前田浩、朝倉照雄、奥田聖幸、間庭有美子。

<寄付> ○一般寄付 野口紀子、五十嵐典子、黒田絢、小林久子、加納武、太田知子、齊藤和子、齊藤正典、手塚恵、池田章二、伊藤成、前田浩、朝倉照雄。

○多文化 紺野輝代、太田知子。

○まなばる 前畑希明、太田知子。

○招聘 菅ヶ谷由美子、伊藤優子、村井田和夫。皆様、ありがとうございました。

編集後記：新しい年度に入ったとは言え、まだ2月・3月のぐんま、インドネシア、アメリカと続いた三つの「多文化交流」の余韻も抜けぬまま、決算、総会準備、5月、6月、8月の交流の準備に追われています。その中でのレター作成。読みにくい所もあるかと思いますが、ご勘弁下さい。今年度も皆様にとって充実した一年となりますよう祈念しております。 太田

Newsletter 発行 特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振替口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所

Facebook：多文化交流 NPO 法人国際比較文化研究所